

平成31(2019)年度 業務の実績に関する報告書について (概要版)

平成31(2019)年度は、第3期中期計画の3年目にあたり、第3期中期目標の主要事業と位置付けた新教育課程の全学一斉導入、コアプログラム制や海外体験の充実を中心とした英米学科の再編、新社会人教育プログラムの開設等に重点的に取り組む非常に重要な年度であった。

こうした認識のもと、就職支援の充実や研究開発の推進、SDGs等社会貢献を推進するとともに、理事長・学長のリーダーシップの下、引き続き大学ガバナンスの充実や、自主財源の確保等健全な財政運営に努め、またコンプライアンスの強化にも取り組み、教育、研究、社会貢献、管理運営の4つの全分野において計画を着実に実施した。

1 自己点検・評価報告書の作成

平成31(2019)年度計画に係る事業の実績について、内部質保証推進室で各部局及び事務局各課からの報告に基づいて取りまとめ、その進行状況を下記の4段階で評価し、自己点検・評価報告書を作成した。

<年度計画の進行状況>

IV 年度計画を上回って実施している III 年度計画を順調に実施している
II 年度計画を十分に実施できていない I 年度計画を実施していない

2 平成31(2019)年度計画の進行状況

平成31(2019)年度計画の進行状況は以下のとおりである。3頁以降に、IV評価とした項目の取組状況を示す。

<年度計画の進捗>

分野	中期計画 項目数	完了※ 項目数	平成31(2019)年度計画における項目数及び進行状況				
			IV	III	II	I	
教育	31	1	30	6	24	0	0
研究	9	0	9	0	9	0	0
社会貢献	12	0	12	1	11	0	0
管理運営	17	0	17	3	14	0	0
計	69	1	68	10 (14.7%)	58 (85.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

※2018年度末までに完了した中期計画の項目数

【IV評価の項目】

計画 No	年度計画の内容	実施状況																																																					
教育 1	<p>[地域科目の開設等] 学士課程についてカリキュラムの再編を行い、2019年度入学生から新教育課程を導入する。基盤教育科目の地域科目について、新教育課程の導入に合わせ、これまでの6科目から12科目に再編、拡充する。「地域の社会と経済」、「地域の文化と歴史」、「地域の達人」、「地域防災への招待」など、11科目を開講し、講師には引き続き行政担当者や企業の実務家を招聘する。</p>	<p>2019年度からの新教育課程導入に合わせ、基盤教育課程において、3つのポリシーを見直し、身につける力（基盤力）の一つに「地域と歩む」を位置づけ、<u>地域科目を6科目から12科目に再編・充実</u>した。 また、地域科目の講師には行政担当者や企業の実務家を多数招聘し、各科目において招聘する<u>実務家教員数を前年度51名から117名と大幅に増員</u>する等、授業内容を充実させた。 それらの取組みの結果、<u>新教育課程における1年次の地域科目受講者数が前年度830名から1,351名と大幅に増加（521名増）</u>させることができた。</p> <p>(地域科目の開講・受講状況)</p> <table border="1" data-bbox="707 300 1342 1379"> <thead> <tr> <th rowspan="2">配当 時期</th> <th rowspan="2">科目名称</th> <th colspan="2">受講者数</th> </tr> <tr> <th>旧教育課程 2018年度</th> <th>新教育課程 2019年度 (うち2019年度 入学生)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">1年次</td> <td>地域特講A ◎</td> <td></td> <td>106名</td> </tr> <tr> <td>都市と地域 ◎</td> <td></td> <td>241名</td> </tr> <tr> <td>地域の社会と経済</td> <td>206名</td> <td>279名</td> </tr> <tr> <td>地域の文化と歴史</td> <td>500名</td> <td>332名</td> </tr> <tr> <td>地域の達人 ◎</td> <td></td> <td>301名</td> </tr> <tr> <td>地域のにぎわいづくり</td> <td>124名</td> <td>239名</td> </tr> <tr> <td>地域と国際 ◎</td> <td></td> <td>132名</td> </tr> <tr> <td>地域防災への招待 ◎</td> <td></td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>1年次配当科目の受講者数推移</td> <td></td> <td>830名</td> <td>1,641名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2年次</td> <td>北九州市の都市政策</td> <td>483名</td> <td>299名</td> </tr> <tr> <td>まなびと企業研究Ⅰ</td> <td>23名</td> <td>202名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3年次</td> <td>まなびと企業研究Ⅱ</td> <td>2名</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,338名</td> <td>2,152名</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td></td> <td>1,351名</td> </tr> </tbody> </table>	配当 時期	科目名称	受講者数		旧教育課程 2018年度	新教育課程 2019年度 (うち2019年度 入学生)	1年次	地域特講A ◎		106名	都市と地域 ◎		241名	地域の社会と経済	206名	279名	地域の文化と歴史	500名	332名	地域の達人 ◎		301名	地域のにぎわいづくり	124名	239名	地域と国際 ◎		132名	地域防災への招待 ◎		11名	1年次配当科目の受講者数推移		830名	1,641名	2年次	北九州市の都市政策	483名	299名	まなびと企業研究Ⅰ	23名	202名	3年次	まなびと企業研究Ⅱ	2名	10名	合計	1,338名	2,152名				1,351名
配当 時期	科目名称	受講者数																																																					
		旧教育課程 2018年度	新教育課程 2019年度 (うち2019年度 入学生)																																																				
1年次	地域特講A ◎		106名																																																				
	都市と地域 ◎		241名																																																				
	地域の社会と経済	206名	279名																																																				
	地域の文化と歴史	500名	332名																																																				
	地域の達人 ◎		301名																																																				
	地域のにぎわいづくり	124名	239名																																																				
	地域と国際 ◎		132名																																																				
	地域防災への招待 ◎		11名																																																				
1年次配当科目の受講者数推移		830名	1,641名																																																				
2年次	北九州市の都市政策	483名	299名																																																				
	まなびと企業研究Ⅰ	23名	202名																																																				
3年次	まなびと企業研究Ⅱ	2名	10名																																																				
	合計	1,338名	2,152名																																																				
			1,351名																																																				

※◎は2019年度から地域科目として開講した科目

計画 No	年度計画の内容	実施状況															
教育 6	<p>[環境 ESD プログラムの再編] 新教育課程の導入にあわせ、副専攻「環境 ESD プログラム」を 2019 年度入学生から新しいプログラムで開講するとともに、環境関連科目の履修者等、環境に関する学生への広報活動を充実するなど、効果的な学内広報を実施する。 [履修学生数：プログラム定員の 90% 以上]</p>	<p>副専攻「環境ESDプログラム」では、「環境」に関連した科目を体系的に整理し、2019年度から新カリキュラムを開始した。新カリキュラムにおいては、基盤教育センターと連携して、当該プログラムの導入科目として基盤教育科目「環境ESD入門」を新規に開講する等、より多くの学生が環境ESDへの関心を持てるような仕組みを構築した。</p> <p>また、オプショナルプログラムとして「探求型海外スタディツアー」を実施し、基盤教育科目「環境ESD入門」において、スタディツアーの参加者が発表する等、効果的な学内向けの広報活動を行った。</p> <p>これらの効果的な取り組みの結果、新カリキュラムでも、履修者数は41名と定員を上回る人数となり、数値目標である「プログラム定員の90%以上」を3年連続で達成した。</p> <p style="text-align: right;">※定員40名</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2016年度</th> <th>2017年度</th> <th>2018年度</th> <th>2019年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>履修者数</td> <td>14名</td> <td>37名</td> <td>40名</td> <td>41名</td> </tr> <tr> <td>定員充足率</td> <td>35%</td> <td>93%</td> <td>100%</td> <td>102%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	履修者数	14名	37名	40名	41名	定員充足率	35%	93%	100%	102%
年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度													
履修者数	14名	37名	40名	41名													
定員充足率	35%	93%	100%	102%													
教育 7	<p>[教育組織の再編] ○外国語学部英米学科は、2019 年度入学生から、英語集中プログラムや、将来のキャリアを意識した「Language and Education Program」「Society and Culture Program」「Global Business Program」の 3 つの専門分野から選択するコアプログラム制、海外体験の充実などを中心とした新教育課程を導入する。</p>	<p>＜英米学科の再編＞ 外国語学部英米学科の教育体制を強化し、高度な英語運用能力のもとで、3 つの専門分野から選択するコアプログラム制、海外体験の充実等を中心とした新教育課程を 2019 年度から開始した。</p> <p>新体制においては、専任教員 15 名のうち、外国人教員 8 名、女性教員 7 名と、外国人教員、女性教員を多く採用し、英米学科ならではの国際的な教育体制を構築するとともに、カリキュラムの刷新に合わせ、広報活動を強化し、積極的な PR を実施した結果、引き続き、基礎英語力の高い優秀な学生を確保した。 (1 年次 1 学期時点 TOEIC スコア平均 670.7 点 / 前年度 629.5 点)</p>															

計画 No	年度計画の内容	実施状況																								
	<p>○グローバル人材育成推進事業「Kitakyushu Global Pioneers」の後継プログラムとして、新たに学部共通の教育プログラム「Kitakyushu Global Education Program (KGEP)」を開設し、2019年度入学生から、高い英語運用能力と実践力を身につける副専攻プログラム「Advancedコース」と海外体験を中心とする教育プログラム「Challengeコース」を開始する。</p>	<p>＜Kitakyushu Global Education Program (KGEP) の開設＞ 英米学科の再編とともに、全学の学生を対象とする「Kitakyushu Global Education Program (KGEP)」を2019年度に開設した。このプログラムは、海外体験を中心とするプログラム「Challengeコース」と、高い英語運用能力と実践力を身につける副専攻プログラム「Advancedコース」の2つのコースから構成されており、そのうち、1年次生から学ぶことができる「Challengeコース」を開始した。</p>																								
<p>教育 9</p>	<p>〔派遣留学の拡大〕 ○既存協定校への留学枠の確保・拡大に努めるほか、新たにシンガポール経営学校 (Singapore Institute of Management) への留学プログラムを開始する。また、ダブリンシティ大学 (アイルランド) と学術交流協定及び学生派遣協定を締結するとともに、新規協定校の開拓に向けて積極的に取り組む。</p> <p>○留学フェア等において、協定による派遣留学、語学留学、その他海外体験プログラムの学生への周知とあわせて、留学報告会、奨学金説明会などを開催し、学生の留学等への意欲を高める。また、基盤教育科目「世界での学び方」や英米学科で学生の留学に関するニーズ調査を行う。 〔海外での学習体験者数:2022年度までに1.5倍以上 (2015年度比)〕</p>	<p>＜既存協定校への留学枠の確保・拡大＞ <u>国際教育交流センター</u>では、<u>シンガポール経営学校 (Singapore Institute of Management)、中原大学との留学プログラムの募集を開始するとともに、2019年度は、既存協定校の留学枠を拡大することに注力し、派遣枠数20名増(前年度比13.6%増)、受入枠数12名増(前年度比15.1%増)と留学枠を拡大した。</u></p> <p>＜交換、派遣留学等の派遣実績＞ 学生の留学等への意欲を高めるため、留学説明会や保護者対象説明会、留学報告会等を実施した結果、<u>2015年度以降、最も多い145名の派遣留学が決定し、対前年度比では18.8%増加(122名→145名)</u>した。 (但し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実際の派遣留學生数は119名)</p> <p>(派遣実績)</p> <table border="1" data-bbox="1093 616 1332 1377"> <thead> <tr> <th></th> <th>2018年度</th> <th>2019年度</th> <th>2019年度 決定者数※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交換留學生数</td> <td>51名</td> <td>43名</td> <td>53名</td> </tr> <tr> <td>派遣留學生数</td> <td>49名</td> <td>56名</td> <td>56名</td> </tr> <tr> <td>語学研修</td> <td>19名</td> <td>16名</td> <td>32名</td> </tr> <tr> <td>その他※1</td> <td>3名</td> <td>4名</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>122名</td> <td>119名</td> <td>145名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 デイズニー・バレンシア国際カレッジプログラム ※2 留学が決定した学生数 (新型コロナウイルス感染症拡大の影響により留学を中止・延期した人数を含む)</p>		2018年度	2019年度	2019年度 決定者数※2	交換留學生数	51名	43名	53名	派遣留學生数	49名	56名	56名	語学研修	19名	16名	32名	その他※1	3名	4名	4名	合計	122名	119名	145名
	2018年度	2019年度	2019年度 決定者数※2																							
交換留學生数	51名	43名	53名																							
派遣留學生数	49名	56名	56名																							
語学研修	19名	16名	32名																							
その他※1	3名	4名	4名																							
合計	122名	119名	145名																							

計画 No	年度計画の内容	実施状況																					
教育 13	<p>〔教育課程の再編〕 学士課程において、全学及び学科等の3つのポリシーの再整備を踏まえ、2019年度入学生から、新教育課程を導入する。</p>	<p>2016年度に立ち上げた全学組織「3つのポリシー策定会議」において、卒業後の社会との接続を踏まえ、3つのポリシー※作成方針と全学DP・CP・APを策定した。これに基づき、各学科・学類・基盤教育センターでDP・CP・APを策定し、併せてカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、科目ナンバリングを再整備した。</p> <p><u>順次性・体系性を重視した科目の見直し（カリキュラム・ツリー等の作成）までに3年間かけて計画的に実行してきた結果、基盤教育センターの「基盤力」をはじめ、「海外体験の重視」や「環境人材の育成」等、各学部・学群の特色に応じた新教育課程を、2019年度から一斉に開始することができた。</u></p> <p>※卒業認定・学位授与方針（DP）、教育課程編成実施方針（CP）、入学者受入方針（AP）</p>																					
教育 21	<p>〔アクティビティを含めた社会人教育の充実〕 ○新社会人教育プログラム「i-Designコミュニティカレッジ」を開設する。 また次年度に向け、学修意欲の高い、より多くの社会人履修を目指し、引き続き幅広い広報活動を行う。</p> <p>○2017年度の文部科学省補助事業enPiT-Proに採択された「地域産業の競争力強化を図る人工知能とロボット技術を駆使したIoT技術の社会実装を推進する実践的人材育成コースの開発・実施」（以下「enPiT-everi事業」という。）において、共同申請校との連携のもと、社会人向け「人工知能・ロボット・IoT」に関する実践教育プログラム</p>	<p>＜i-Designコミュニティカレッジの開設＞ 新社会人教育プログラム「i-Designコミュニティカレッジ」を開設するとともに、2期生募集に向け効果的な広報活動を実施した結果、<u>1期生に引き続き定員を上回る55名の履修生を獲得した。</u> また、これまでの社会人ニーズ調査結果に加え、1期生へのアンケート結果に基づき、<u>新領域「多様な世界との対話」を新たに開設することが決定した。</u></p> <p>(履修状況)</p> <table border="1" data-bbox="1070 479 1331 1375"> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>2019年度</th> <th>2020年度※</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学問と人生</td> <td>9名</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>地域創生</td> <td>12名</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>こころの科学</td> <td>36名</td> <td>22名</td> </tr> <tr> <td>多様な世界との対話（2020年度開始）</td> <td></td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>57名</td> <td>55名</td> </tr> <tr> <td>履修定員（各領域13名）</td> <td>39名</td> <td>52名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※新型コロナウイルス感染症予防の観点から履修中止を余儀なくされたため、2020年度履修決定者は履修の権利を保留</p>	領域	2019年度	2020年度※	学問と人生	9名	10名	地域創生	12名	5名	こころの科学	36名	22名	多様な世界との対話（2020年度開始）		18名	合計	57名	55名	履修定員（各領域13名）	39名	52名
領域	2019年度	2020年度※																					
学問と人生	9名	10名																					
地域創生	12名	5名																					
こころの科学	36名	22名																					
多様な世界との対話（2020年度開始）		18名																					
合計	57名	55名																					
履修定員（各領域13名）	39名	52名																					

計画 No	年度計画の内容	実施状況																								
	<p>ラムを本格的にスタートさせる。また、地元企業や情報関連産業団体等を対象に引き続き広報活動を行う。</p>	<p>＜enPiT-everi 事業の本格開始＞ 「人工知能・ロボット・IoT」に関する社会人向け実践教育プログラム「enPiT-everi 事業」を本格的に開始し、地元の中小企業や情報関連産業団体を対象に広報活動を実施した。 また、社会人でも履修しやすいよう、従来の120時間のコースに加え、2020年度から、60時間の履修でも修了できる短時間コースの導入、科目別履修者の複数期にまたがる累積受講による修了認定制度の導入が決定した。</p> <p>(プログラム履修状況)</p> <table border="1" data-bbox="609 600 783 1379"> <thead> <tr> <th>プログラム名</th> <th>2019年度履修生</th> <th>2020年度(前期)履修生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コース受講</td> <td>7名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>科目別履修</td> <td>68名 (1,773コマ)</td> <td>103名 (2,005コマ)</td> </tr> </tbody> </table>	プログラム名	2019年度履修生	2020年度(前期)履修生	コース受講	7名	1名	科目別履修	68名 (1,773コマ)	103名 (2,005コマ)															
プログラム名	2019年度履修生	2020年度(前期)履修生																								
コース受講	7名	1名																								
科目別履修	68名 (1,773コマ)	103名 (2,005コマ)																								
<p>社会 貢献 44</p>	<p>〔地域共生教育センターのプロジェクトの充実〕 引き続き、地域の社会貢献活動に関する情報を幅広く集約するとともに、地域の課題解決や人材育成につながるプロジェクトを開発・拡充し、学生の地域活動への参加の機会を増やすほか、学生向け説明会、新入生向けガイダンス、ウェブサイト等における活動報告や参加呼びかけにより、地域活動への参加を促進する。 〔2022年度プロジェクト参加学生数：10%増加(2015年度比)〕</p>	<p><u>プロジェクト参加学生数は引き続き増加し、2019年度は2015年度比1.72倍となる523名の学生がプロジェクトに参加し、2015年度以降最も多い参加学生数となった。</u></p> <p>(新規プロジェクト) 学内のSDGsの取組みを発信する「キャンパスSDGsプロジェクト」(参加者15名)</p> <p>(プロジェクト数及び参加学生数)</p> <table border="1" data-bbox="1129 226 1294 1379"> <thead> <tr> <th></th> <th>2015年度</th> <th>2016年度</th> <th>2017年度</th> <th>2018年度</th> <th>2019年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロジェクト数</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>参加学生数</td> <td>304名</td> <td>349名</td> <td>430名</td> <td>472名</td> <td>523名</td> </tr> <tr> <td>対2015年度比</td> <td>-</td> <td>1.15</td> <td>1.41</td> <td>1.55</td> <td>1.72</td> </tr> </tbody> </table>		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	プロジェクト数	16	17	19	19	19	参加学生数	304名	349名	430名	472名	523名	対2015年度比	-	1.15	1.41	1.55	1.72
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度																					
プロジェクト数	16	17	19	19	19																					
参加学生数	304名	349名	430名	472名	523名																					
対2015年度比	-	1.15	1.41	1.55	1.72																					

実施状況																			
計画 No 管理 運営 58	<p>年度計画の内容</p> <p>〔自主財源の確保〕 外部研究資金の獲得等により、外部資金等を年間6億円以上獲得する。 〔外部研究資金：年間6億円以上〕</p>																		
	<p>研究活動の推進により、4年連続して目標額6億円を大きく上回る外部研究資金を獲得した。</p> <p>(外部資金獲得実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2015年度</th> <th>2016年度</th> <th>2017年度</th> <th>2018年度</th> <th>2019年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>275件</td> <td>321件</td> <td>325件</td> <td>320件</td> <td>311件</td> </tr> <tr> <td>獲得額</td> <td>675百万円</td> <td>817百万円</td> <td>836百万円</td> <td>733百万円</td> <td>774百万円</td> </tr> </tbody> </table>		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	件数	275件	321件	325件	320件	311件	獲得額	675百万円	817百万円	836百万円	733百万円	774百万円
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度														
件数	275件	321件	325件	320件	311件														
獲得額	675百万円	817百万円	836百万円	733百万円	774百万円														
管理 運営 64	<p>〔キャンパス整備〕</p> <p>○北方キャンパスの老朽化した施設・設備について、2018年度見直しを行った「長期修繕計画」を踏まえ、財源確保に努めながら、計画的に整備に取り組み。また、他建物についても引き続き調査を行う。</p> <p>○ひびきのキャンパスの施設について、長期改修計画（建物面）に基づいた整備を進めるとともに、計画外で発生した改修についても、緊急性・優先度に応じて実施する。また、建物面と同様に、電気設備や空調設備、給排水設備等の設備面について、専門業者への委託により長期改修計画を作成する。</p>																		
	<p>＜各キャンパスの主な整備状況＞</p> <p>北方キャンパスにおいて、新たな長期修繕計画を策定するとともに、体育館兼講堂の屋根防水等改修工事や2号館外壁等改修工事を実施した。</p> <p>また、ひびきのキャンパスにおいて、設備面の長期改修計画作成に着手するとともに、計測・分析センター外壁改修工事を実施した。</p> <p>＜女子トイレ改善プロジェクト＞</p> <p>学長指示により、北方キャンパスにおいて女子学生を中心とする「女子トイレ改善プロジェクトチーム」を立ち上げ、他事例等の研究や専門家との意見交換の結果を提案書にまとめ、一部トイレの改修内容に反映・活用した。これらの取組みの成果を生かし、今後3年間で本館、1号館等のトイレの洋式化率8割を目標に本提案を生かした改修を行うこととしており、学生本位の施設整備の在り方として、意義ある事例として高く評価した。</p>																		

計画 No	年度計画の内容	実施状況
管理 運営 68	<p>〔危機管理体制の強化〕</p> <p>○様々なリスクに対応するため、危機発生時の緊急連絡体制について、必要に応じて適宜見直しを行う。海外における危機管理については、関係部署と連携し、海外危機管理セミナーの開催等により、危機管理の意識を高めるとともに、海外危機管理に関する「行動計画」を策定し、JCSOSや関係部署との連携の下、「海外危機管理シミュレーション」を実施する。</p> <p>○入学時オリエンテーションや学生生活安全講習会において、リスクに対する注意喚起を学生に行うとともに、事故・災害等を想定した研修・訓練の実施や「安全・安心ハンドブック」等の配布を通じ、全学的な危機管理意識を高める。</p>	<p>＜海外危機管理シミュレーションの実施＞</p> <p><u>JCSOS と連携し、実施した「海外危機管理シミュレーション」は、具体的危機事象を事前に知らされず、年度計画時に想定していた以上に緊迫したなかで、丸半日かけて実施された。JCSOS から高い評価を得た一方で、課題も明らかになり、海外危機への対応のみならず危機管理全体への意識づけや実効性のある体制づくりに強い印象を残し、良い影響を及ぼすものであったため高く評価した。</u></p> <p>＜危機管理に対する全学的な取り組み＞</p> <p>新入生には「安全・安心危機管理マニュアル」を配布し、在学生には学生生活安全講習会や防犯教室を開催する等、危機管理意識を高めるために多角的な施策を講じた。</p> <p>また、消防署と合同で学生・教職員を対象とした防災訓練を開催したほか、学生団体と大学事務局で開催している連絡会議の開催回数を増やし、連携を強化した。</p>